

第二講 「出家単語」

「出家」とは ↓ 俗世を捨てて仏門に入ること

★昔の人の言う「出家したい」のニュアンスは現代の「死にたい」と似ている！

出家する

どんな行為か



髪を切る・袈裟を着る

俗世を捨てる（逃れる）

かしらおろす・御髪みぐし下ろす・かたち（姿・様）を変ふ
世を出づ（背く・遁のがる・離る・捨つ・厭いとふ）・髻もんどじり切る

Ex

（浮舟）

かたちかへ、

世を背き

にきとおぼえたれど

訳

（浮舟は）

出家し、

俗世を捨て

てしまったと思われたが

ひえの山にのぼりて

かしらおろし

てけり

訳

比叡山に登って

髪をそり出家し

てしまった

○ついでに理解しておく基礎仏教思想

仏教では現世（この世）を仮の世と考え汚れた世界であると考えられていた。そのため出家をして俗の世界を離れ、理想の世界である極楽浄土に行くという思想がある。

○有名な仏教説話

「日本霊異記」平安初期——僧景戒撰

「発心集」鎌倉初期——鴨長明

「沙石集」鎌倉中期～後期——無住一円

仏教関連単語

例文

①行ふ（ハ行四段）・・・★仏道修行する
★勤行する

「山籠もりしたり、滝に打たれたりするのが仏道修行。お経を読んだり、仏様に祈ったりする行動が勤行のイメージ」

②つとむ「務む・勉む・勤む」（マ行下二）

・・・★仏道修行する

★勤行する

努力する

①君は行ひしたまひつつ、日たくるままに

↓君は仏道修行をなさりながら、日が高くなるにつれて

②道を知るものは植ううることをつとむ

↓道理を知るものは、（役立つ草木を）栽培することに努力する

初夜、いまだつとめ侍らず

③宿世（すくせ）・・・前世・先の世

★前世からの因縁

「輪廻（りんね）という考えが仏教にはあり、現世の幸運、不幸は全て前世からの行いで決まっているというものである。現世を拘束する不可思議な力を宿世という」

↓初夜の勤行まだ勤めておりません

③先の世にこの国に跡をたるべきすくせこそありけめ

↓前世でこの国に移り住むはずの因縁があったのであろう

④絆（ほだし）・・・自由を束縛するもの

係累・親や妻子

「絆つてたまに邪魔にならないかな？ 友達のために自分の自由が束縛されることはない？ そうなのが『ほだし』だから、出家の障害になるものを『ほだし』と示す」

④なべてほだし多かる人の、よろづにへつらい、望み深きを見て

↓総じて（妻子などの）係累の多い人が、何かにつけて追従をし、欲深いものを見て

⑤見そめつるちぎりばかりを捨てがたく、思ひとまる人は、ものまめやかなり

↓馴れそめた（夫婦関係の）因縁だけを捨てかねて（他の女に）心移りしない男は誠実だ

⑥契（ちぎり）・・・約束・取り決め

★因縁・男女夫婦の縁

「契りを交わすで約束するという意味だよ。そこから考えて、男女の契は夫婦の縁ということになる」

⑥やつしたれど、みにくくなどはあらで

↓みすばらしく姿を変えているが、見苦しくはなくて

⑦やつす（サ行四段）・・・質素な身なりにする

目立たないようにする

かたちをやつしてけること、と胸つぶれて

※とくに「身をやつす」で「出家する」の意。

⑦しるし「験・兆」・・・「験」効き目・効果

★霊験・ご利益

「兆」きざし・前兆

『「験」は祈った結果の『効き目』や、仏や神による不可思議な『霊験』を示す。『兆』は漢字のまま『前兆』や物事がおこる『きざし』の意』

⑦よろづにまじなひ、加持などまぬらせ給へど

↓色々といや祈禱などをおさせになるが、効き目がなくて

※同音に形容詞の「著し」があり、これは『はつきりと様子の見えるような状態』を示す言葉で「きわだっている・はつきりしている」の意。

↓あの鬼についての流言はこの（病気が流行る）前兆を告げ知らせるものであったと言う人もございました